

大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F135110110054	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	山口大学	設置区分	国立	事業計画名	【山口大学】Society5.0を牽引するしなやかな高度情報専門人材育成機能強化
学校種	大学	都道府県	山口		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞53名、＜学士＞90名（3年次編入学定員10名を含む） 工学部知能情報工学科（入学定員90名（3年次編入学定員10名を含む）） 大学院創成科学研究科電気電子情報系専攻（情報系）（博士前期課程）入学定員53名	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞53名、＜学士＞90名（3年次編入学定員10名を含む） 工学部知能情報工学科（入学定員90名（3年次編入学定員10名を含む）） 大学院創成科学研究科電気電子情報系専攻（情報系）（博士前期課程）入学定員53人	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 1月 情報学部学生数増のための知能情報棟演習室改修工事 ② 1月 情報学部学生数増のための情報講義棟新営工事（設計費前払い） ③ 1月 高度情報教育システム構築のための備品整備 ④ 10月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員確保	① 1月 情報学部学生数増のための情報講義棟新営工事（設計費前払い） ② 12月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員確保（R7.3.31承認） 令和6年度に実施する計画であった知能情報棟演習室改修工事について、授業で演習室を使う必要があり、令和7年度に実施することとなったため、〔① 1月 情報学部学生数増のための知能情報棟演習室改修工事〕及び〔③ 1月 高度情報教育システム構築のための備品整備〕については、知能情報棟演習室改修工事を後倒ししたことに伴い、令和7年度に実施する計画に変更した。このことによる事業実施への支障はない。これらの変更については、「計画変更承認申請書」を提出し、承認を受けている(R7.3.31承認)。		
令和7年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞53名、＜学士＞90名（3年次編入学定員10名を含む） 7月 情報学部情報学科 設置届出		R7年度自己評価	リストから選択してください。
	① 6月 情報学部学生数増のための情報講義棟新営工事（設計管理費最終払い） ② 9月 情報学部学生数増のための情報講義棟新営工事（建物整備費前払い） ③ 1月 高度情報教育システム構築のための備品整備 ④ 12月 講義システム構築のための備品整備 ⑤ 10月 高度情報専門人材育成のための教育体制整備（人間情報学コース担当実務家教員3名雇用） ⑥ 4月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員の雇用（継続）			
令和8年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞53名、＜学士＞130名（3年次編入学定員10名を含む） 4月 情報学部情報学科設置（入学定員130名（3年次編入学定員10名を含む））		R8年度自己評価	リストから選択してください。
	① 5月 情報学部学生数増のための情報講義棟新営工事（建物整備費中間払い） ② 11月 情報学部学生数増のための情報講義棟新営工事（建物整備費最終払い） ③ 3月 情報講義棟新営に伴う建物附属設備整備 ④ 3月 講義システム構築のための備品整備 ⑤ 3月 プロジェクトルーム整備のための備品整備 ⑥ 4月 高度情報専門人材育成のための教育体制整備（人間情報学コース担当実務家教員3名雇用）（継続） ⑦ 4月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員の雇用（継続）			
令和9年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞53名、＜学士＞130名（3年次編入学定員10名を含む） 7月 大学院創成科学研究科情報学専攻 設置届出		R9年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 高度情報専門人材育成のための教育体制整備（人間情報学コース担当実務家教員3名雇用）（継続） ② 4月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員の雇用（継続）			
令和10年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞63名、＜学士＞130名（3年次編入学定員10名を含む） 4月 大学院創成科学研究科情報学専攻（博士前期課程）設置（入学定員63名）		R10年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 高度情報専門人材育成のための教育体制整備（人間情報学コース担当実務家教員3名雇用）（継続） ② 4月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員の雇用（継続）			
令和11年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞63名、＜学士＞130名（3年次編入学定員10名を含む）		R11年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 高度情報専門人材育成のための教育体制整備（人間情報学コース担当実務家教員3名雇用）（継続） ② 4月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員の雇用（継続） ③ 4月 高度情報教育システム構築のための設備リース（自己負担）			
令和12年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞83名、＜学士＞130名（3年次編入学定員10名を含む） 4月 大学院創成科学研究科情報学専攻（博士前期課程）20名増員（入学定員83名）		R12年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 高度情報専門人材育成のための教育体制整備（人間情報学コース担当実務家教員3名雇用）（継続） ② 4月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員の雇用（継続） ③ 4月 高度情報教育システム構築のための設備リース（自己負担）（継続）			
令和13年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞83名、＜学士＞130名（3年次編入学定員10名を含む）		R13年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 高度情報専門人材育成のための教育体制整備（人間情報学コース担当実務家教員3名雇用）（継続） ② 4月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員の雇用（継続） ③ 4月 高度情報教育システム構築のための設備リース（自己負担）（継続）			
令和14年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞83名、＜学士＞130名（3年次編入学定員10名を含む）		R14年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 高度情報専門人材育成のための教育体制整備（人間情報学コース担当実務家教員3名雇用）（継続） ② 4月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員の雇用（継続） ③ 4月 高度情報教育システム構築のための設備リース（自己負担）（継続）			
令和15年度	【情報系組織の入学定員】＜博士＞6名、＜修士＞83名、＜学士＞130名（3年次編入学定員10名を含む）		R15年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 高度情報専門人材育成のための教育体制整備（人間情報学コース担当実務家教員3名雇用）（継続） ② 4月 学部・研究科認可申請及び認可後運営補助のための事務補佐員の雇用（継続） ③ 4月 高度情報教育システム構築のための設備リース（自己負担）（継続）			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	山口大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

対象に該当しない

☐ チェック
- ②

志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ④

特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑤

計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑥

特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑧

教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

既設の情報系分野に係る研究科等を有する

☒ チェック
- ⑨

機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑩

計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑪

国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までには他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない

☒ チェック
- ⑫

教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑬

文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

認定を受けている、又は対象に該当しない

☒ チェック

認定を受ける計画が進んでいる

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	山口大学
-------------	-------	-----	------

⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
電気電子情報系専攻(情報系)では、県内企業の実務者と連携して「長期インターンシップⅠ」及び「電気電子情報系特論」を開講している。情報学専攻へ改組後は、「長期インターンシップⅠ」及び「情報学特論」を開講し、「情報学特論」では、地域の企業・自治体とさらなる連携強化を図り、実社会で活躍する情報系技術者の体験談等を通して、課題を発見し解決する能力を養う。また、宇宙航空研究開発機構(JAXA)西日本衛星防災利用センター及び山口県宇宙データ利用推進センターと共同で、平成29年度から衛星データの活用や解析等に関する研究会を開催し、山口県における衛星データ活用ビジネスの発展に貢献している。情報学専攻にジオ・インテリジェンスコースを設置し、リモートセンシング技術、衛星データ解析技術及び地理空間情報活用技術を体系的に学ぶ人材の育成を通して、衛星ビジネスに興味を持つ県内企業との連携をさらに深めていくだけでなく、ベンチャー企業の起業者も含む宇宙利用産業において中核となる人材を供給する。電気電子情報系専攻(情報系)では、山口県警察との間で情報セキュリティ技術に関する連携・交流を平成28年度から継続している。具体的には、県内企業、学生・教員、警察関係者を対象とした「サイバー攻撃共同対処訓練」を工学部がある常盤キャンパスで継続的に実施している。情報学専攻へ改組後も、県内最大の高度情報専門家集団として、この関係を強化・発展させることにより、県内の情報セキュリティ対応力強化の重要な役割を担う。さらに、電気電子情報系専攻(情報系)は、IT企業の山口県への誘致に関して山口県産業労働部企業立地推進課と連携・協力関係にあり、情報学専攻へ改組後も連携関係を継続・強化する。	・宇宙航空研究開発機構(JAXA)西日本衛星防災利用センター及び山口県宇宙データ利用推進センターと共同で平成29年度から実施している衛星データの活用や解析等に関する研究会を令和6年度においても開催し、山口県における衛星データ活用ビジネスの発展に貢献した。 ・山口県警察との間で情報セキュリティ技術に関する連携・交流を平成28年度から実施しており、その具体的取組みとして令和6年度も県内企業、学生・教員、警察関係者を対象とした「サイバー攻撃共同対処訓練」を工学部がある常盤キャンパスで実施した。(実施期日：令和6年9月6日、参加者：19組織(学術組織からの参加：山口大学、山口県立大学、宇部工業高等専門学校、徳山工業高等専門学校)、98名) ・IT企業の山口県への誘致に関して山口県産業労働部企業立地推進課と連携・協力関係にあり、令和6年度は「DXラウンドテーブル」を山口大学が主催し(令和7年3月3日)企業間情報交換のファシリテーターを務めた。さらに、山口県・情報産業協会と連携し県内及び県外進出を考える企業と学生との交流会を吉田キャンパスおよび常盤キャンパスで実施し、商会場とも3社(吉田：株式会社JR西日本ITソリューションズ、株式会社ゼロティブ、株式会社KUNO；常盤：株式会社JR西日本ITソリューションズ、エイチ・シー・ネットワークス株式会社、株式会社タイテック)が参加した。 ・宇部市及び宇部高専と宇部市立小・中学校における特徴的な情報教育推進実施に関して意見交換を行った。(令和7年2月3日)	

- ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
平成19年度から、山口県立宇部高等学校(以下「宇部高校」)のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業(理数科及び探究科1、2年生各学年80名)に工学部が協力しており、知能情報工学科でも毎年研究班を1グループ受け入れて、ディープニューラルネットワーク、メタバース等に関連した課題研究を実施している。令和5年度より新たな取り組みとして、宇部高校1年生(全240名)を対象とした大学体験セミナー(宇部高校出身の在学生による学生生活紹介及び研究室訪問)を実施している。また、知能情報工学科として、県内の中学・高校に対してコンピュータグラフィックス等をテーマとした出前講義に出向くほか、県内外の中学・高校を対象とした大学見学において模擬授業を令和3年度から令和5年度までの3年間で12件実施している。さらに、毎年「夏休みジュニア科学教室」で小中学生を対象とした「スクイークでプログラムを作ってみよう」や、工学部、山口県宇部市及び宇部高専が連携して宇部市内小中学校でプログラミング等の授業を行う「ワクワク未来デジタル講座」を実施している。初等中等教育において情報教育が本格的に導入されるなか、小中高の教員への支援については、情報教育専門家集団としての情報学部・情報学専攻に対する期待があり、山口県教育委員会と連携して、現場の教員からの相談対応と効果的な支援を実施する仕組みの構築を計画している。これらの取組を継続しながら、積極的に初等中等教育段階の学校との連携を強化し、情報人材の育成に貢献する。	・令和6年度においても、工学部知能情報工学科において宇部高校の探究科1年の研究班1グループ(4名)を受け入れ、論理回路設計に関連した課題研究を実施した。 ・令和6年7月17日に宇部高校1年生(全231名)を対象とした大学体験セミナー(宇部高校出身の在学生による学生生活紹介及び研究室訪問)を実施した。知能情報工学科においても3名の教員が研究室訪問を受け入れた。 ・DXハイスクール採択校対象にオープンキャンパスにおける模擬講義や出前講義を6件実施した。 ・工学部、山口県宇部市及び宇部高専が連携した「ワクワク未来デジタル講座」において、小中高校生を対象とした「こどもプログラミング教室」、デジタル・スタートアップをテーマとした「社会に学び課題を解決する起業」の講座等を実施した。	

- ③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保については、工学部では女子高校生向けの広報誌「ススめ! TECH GIRL」の発行、高校訪問による意見交換等の実施により女子学生比率の向上に取り組みであり、現に入学生に占める女子学生比率は平成28年度14.2%から令和5年度20.0%に増加している。情報学部・情報学専攻においても、これらの広報活動を強化する。社会人学生の確保については、山口県と連携して令和2年度から社会人のリスキリング講座として「データサイエンス技術マスター講座」を開講しており、情報学専攻への進学の動機づけとなるよう、この講座をさらに充実させ、社会人学生の確保に向けて取り組む。留学生の確保については、国際交流協定校との緊密な研究者交流に基づいた積極的な受け入れを行う。また、日本国内企業への就職率を高めることも留学生確保に有効であり、日本特有の就職活動の理解、SPI(企業が採用を行う際に行う適性検査)や面接の指導などについて支援する専門の人員を配置し、国内企業への就職を推進する。	・令和6年度も女子高校生向けの広報誌「ススめ! TECH GIRL」の発行、高校訪問による意見交換等の実施により女子学生比率の向上に取り組み、令和7年度の入学生に占める女子学生比率は21.6%であった。 ・山口県と連携して社会人のリスキリング講座として「データサイエンス技術マスター講座」を開講し、13名が受講した。 ・大学院博士前期課程に入学する留学生確保のため、大学院進学を希望する留学生に対して入試受験前に研究生として積極的に受け入れる取り組みを実施しており、令和6年度は8名受入れた。 ・博士前期課程所属留学生の国内企業への就職率向上のため応募書類作成や面接対策の支援を実施した。これにより、令和6年度修了留学生の国内企業就職希望学生の就職率100%(4名全員)を達成した。	

- ④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
包括連携協定を締結している宇部高専との間で、情報系分野の専攻科生の進学を促進する「情報学専攻進学プログラム(本科・専攻科・大学院シームレス教育コース)」を令和8年度から開設する。このコースでは、両校の敷地が隣接する利点を活かして、情報学部・情報学専攻所属の教員が、宇部高専専攻科生・本科生に対する授業開講、平日インターンシップ及び卒業論文の共同指導等を通して大学院進学後の研究環境や研究テーマを具体的に示すことで専攻科から大学院入学時のギャップを解消することにより、情報学専攻へのシームレスな進学を可能とし、高度情報専門人材としての知識や技能を身に付けさせる。さらに、高専本科生の編入学を促進する「情報学専攻進学プログラム(4年一貫教育コース)」を開設する。このコースでは、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」と同等の教育カリキュラムを学んだ優秀な本科生を対象とし、編入学後、博士前期課程修了までの4年一貫教育を行うことで、高度情報専門人材としての知識や技能を身に付けさせる。『情報学専攻進学プログラム(4年一貫教育コース)』については、宇部高専のみならず県内の他の2高専(徳山工業高等専門学校、大島商船高等専門学校)とも連携強化の協議を開始している。	・宇部高専専攻科生産システム工学専攻および物質工学専攻1年生開講科目『工学概論』において知能情報工学科の2名の教員が授業を担当した（令和7年1月22日、1月24日）。 ・例年実施している宇部高専での編入学説明会を令和6年度も実施した。その中で知能情報工学科のカリキュラムの特徴、就職や進学実績を紹介し、これまでの編入学生の活躍例に触れるなど情報提供を行った。今後情報学部を設置し高専からの編入学生を促進する上で、より身近に感じてもらい貴重な機会として引き続き実施する（実施期日：令和7年1月22日）。	

大学名	山口大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

本事業対象となる研究科等の個数	1
-----------------	---

1. 本事業対象となる情報系組織の状況

1-2. 修士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	大学院創成科学研究科情報学専攻
-------	-----------------

[illegible]

大学名	山口大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

3－3.学士課程

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,919	1,919																	
		入学者数	人	1,951	1,970																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,919	1,919	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	1,951	1,970	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.03	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	8,036	8,038																	
		編入学定員	人	30	30																	
		在籍者数(D)	人	8,542	8,541																	
		編入学者数	人	41	45																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.06																	

4.外部資金の状況（全学）

年度		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	2,743,471																		

特記事項

・創成科学研究科システム・デザイン工学系専攻（情報系）のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。
・創成科学研究科環境共生系専攻（情報系）のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。
・創成科学研究科自然科学系専攻（情報系）のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。
・創成科学研究科電気電子情報系専攻（情報系）のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。
・創成科学研究科基盤科学系専攻（情報系）のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。